

The background of the slide is a light gray gradient with several realistic water droplets of various sizes scattered across it. The droplets have highlights and shadows, giving them a three-dimensional appearance.

# 平成26年度第2回豊能医療圏 がん医療ネットワーク協議会活動 報告

# 組織図

豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会

がん登録部会

緩和ケア部会

がん検診情報部会

がん地域連携部会

がん研究部会

## 【参加団体】

- ◆豊中市・池田市・箕面市・吹田市の各医師会
- ◆大阪府池田保健所・吹田保健所
- ◆豊中市保健所
- ◆豊中市・池田市・箕面市・吹田市・豊能町・能勢町の各市町(がん検診担当課)
- ◆豊能二次医療圏のがん診療拠点病院
  - ・大阪大学医学部附属病院(国指定)
  - ・済生会吹田病院(府指定)
  - ・済生会千里病院(府指定)
  - ・市立池田病院(府指定)
  - ・市立吹田市民病院(府指定)
  - ・市立豊中病院(国指定)
  - ・刀根山病院(府指定:肺がん)
  - ・箕面市立病院(府指定)



平成27年2月26日 豊能がん医療ネットワーク協議会

# がん登録部会

## ◆【26年度活動の達成状況】

- ◆がん登録実務者の登録技術のスキルアップをめざし、学習会を開催  
⇒「病理情報を通じて子宮頸がんを理解する」等の講義や演習、及びがん登録方法の紹介を目的に施設見学を開催した
- ◆がん登録データの各病院からの公開方法の標準化を検討した

## ◆【27年度の活動予定】

- ◆情報交換を目的とした部会の開催  
⇒事前にメールで質問・疑問を募って、3か月に1度開催する予定
- ◆子宮頸がんのがん登録データの公開方法の統一  
⇒各病院の「2013年がん登録データ」を用いて比較・検討し、公開方法について話し合う

# 緩和ケア部会

## ◆【26年度活動の達成状況】

### ◆ 研修医・レジデントの緩和ケア研修会受講促進

⇒ 圏域内の2年から5年目対象医師数と研修受入可能人数の把握を行った

⇒ 結果、対象医師数は301人で、圏域内で受講可能な人数は161人であった

### ◆ 緩和ケアの普及・啓発

⇒ 緩和ケアマップ作成に向け、診療所用の調査用紙を作成した

### ◆ 患者及び家族が心の悩みや体験談を語り合う場の提供

⇒ 患者サロン開催のアンケート調査を実施、8病院中4病院で開催している

⇒ 未開催の病院については、来年度以降の課題とした。

## ◆【27年度の活動予定】

◆ 緩和ケア研修の対象者数、研修会で対応可能な人数を調査し、情報共有する

◆ 医療従事者向け緩和医療研修を把握するとともに、研修概要を共有し、当番制での開催などを検討する

◆ 各病院主催のがんサロンについて、開催日時等の詳細な情報を収集し、患者会への情報提供等に利用

# がん検診情報部会(1)

## ～がん検診～

### ◆【26年度活動の達成状況】

- ◆子宮頸がん検診について、検診対象者だけでなく母親へも趣向を凝らした検診通知を送付し受診を促した
- ◆子宮頸がんをテーマに複数の病院にて市民公開講座を開催していただいた。  
⇒来年度以降も順次開催する予定とした

### ◆【27度の活動予定】

- ◆がん教育の推進  
⇒小中学生に対する「がん教育」を進めるため、各市町がん検診担当部署から各市町教育委員会への働きかけを行う
- ◆がん検診の重要性を啓発するため、講演会開催を検討する

# がん検診情報部会(2)

## ～がん情報～

### ◆【26年度活動の達成状況】

- ◆各病院で、がん情報提供にかかるホームページの適時更新、がん情報提供コーナーの情報最新化に努めた
- ◆手術件数など数値の取り方の定義について、小グループで話し合いの場を持った

### ◆【27年度の活動予定】

- ◆各病院が、「がん情報提供コーナー」に提供している数値の出し方が病院によって解釈が異なっていると思われるので、各病院担当者の話し合いの場を持ち、大阪府などに問い合わせするなど、統一化に向けた取り組みを進める

# がん地域連携部会

## ◆【26年度活動の達成状況】

- ◆ セカンドオピニオン外来に関する情報を集約し、各病院相互の情報共有を行った
- ◆ 各病院のがんクリティカルパス運用状況を集約するとともに、アンケート調査を実施し、クリティカルパス運用上の問題点等を抽出した
- ◆ がんリハビリテーションの各病院の現状把握を行った。がんリハビリテーション研修の受講を計画的に行うなど、今後の方向性・目標を定めた

## ◆【27年度の活動予定】

- ◆ がん地域連携クリティカルパスは、患者ピックアップ手法など、各病院で抱えている課題・問題点やそれに対する工夫を議論・情報共有する
- ◆ がんリハビリテーションは、チームの編成、計画的な研修の受講など各病院での体制整備を図り、情報共有を通じて均てん化をめざす。

# がん研究部会

## (1) 小児がん対策

### ● 小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

阪大病院は、大阪府内のがん診療連携拠点病院等と連携し小児がん患者の診療に取り組んでいる。今後は、小児がん拠点病院である大阪市立総合医療センターと大阪府立母子保健総合医療センターと小児がんに関わる看護師、医師ほか多職種に対する教育等で連携していく予定である。

## (2) 骨髄移植および臍帯血移植の推進

### ● 骨髄移植および臍帯血移植の現状

造血幹細胞移植の件数は年間平均29件程度である。移植の幹細胞ソースとしては兄弟間、骨髄バンク、臍帯血のすべてに対応している。特に骨髄バンクからの移植が多く半数以上を占めている。

## (3) がん研究の推進

### ● 多施設臨床研究の推進(特定非営利活動法人SCCRE(エスキュール))

がん臨床研究を実施する7つの研究会(消化器がん、乳がん、肺がん、泌尿器系がん、骨髄腫等)を支援している。

## (4) 高度先進医療の推進と人材育成

### ● 以下の先進医療を現在実施中である

1. 腹腔鏡下広汎子宮全摘術(先進医療A)
2. ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術(先進医療B)
3. パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法(先進医療B)
4. 術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法(先進医療B)

### ● がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(大学院)

17コースで92名が在学中

(薬物療法、放射線治療、緩和医療、外科治療、放射線物理、細胞診、がん看護等)